

るかを眺めてゐる。

私は我が妹の事業の空しくなる事を恐れてゐた

しかしそんなことはない。

「正義な仕事は神の手の中にある」。(京子)

ジュネーブに於ける子供の家

ジオヨン・レスタール

私は、バラス、デ、ナシヨンを出て、ジュネーブ湖畔の廣々した遊歩道を散歩した。朝の空氣の中にクツキリと晴れたモン、ブランの雄姿が巍然として聳えてゐる。がこの雄姿も今の私の心にはそう大してはつきりとは映らない。今私は、もつと小さい、もつと手近な事を考へてゐるのである。即ち或る有名な子供の學校の事を考へてゐるのである。この學校はジュネーブの郊外にあつて、ルツンナー學院と稱し、熟練した親切な指導の下に監理されてゐる。私は紹介状を手にしてその校門をくゞつた。十月末であるのに尙ほ木々の緑は鮮

かである。その木陰に包まれてゐる美しい「小供の家」の廻りを歩いたり、茂みの裡の小道を辿つて行つたりする中に、私はその邊にある花園や、小鳥の囀つてゐる森の中にぼつ／＼と見える素朴な家に氣がついた。いかにも子供達が拵へたものらしい。併し、あたりは妙に、しんとしてゐるので私は自分の來る日を間違へたのではないかしら等とも見へたが、とにかく參觀名簿を改めて見た、やつぱり今日は自分の來る日なのだ。安心しては入り、帽子や上衣をかけたがあたりのがみんな小さな可愛いのばかりなので、自分のが如何にも

不釣合に、異形に見えた。それから、中には入つて可愛い、十三人の主人達の仲間入りをした。

私は六歳の子供達が樂しげに語り合ふ話しを夢中で聽いてゐた。その中。デンプエンデル夫人は眞中の机の上に、美しい百姓家の模型をのせた。

この百姓家には厩舎も附いてゐれば、鳥小屋もある。兎小屋もあれば犬小屋もある、井戸小屋もあるし、豚小屋もあり、その上、青々とした緑の垣さへも、ちやんと附いてゐるのである。ヘンリーの犬や、マーセルの兎について、どんな質問應答や物語りなどが語られたであらう。「小さい樂しそうなお室!!」こんなよろこばしそうな叫び聲がきこえる。これはミヘルの聲である。ミヘルは軒下の小窓を開けて中を覗き込んだ。やがてラフエンデル夫人は門や家その他この家の附屬建物をとり外づす様に子供等に云ふた。子供達はどんなに嬉しかつた事であらう。門、垣、と順々にとり

外づされ、間も無くすつかり取り外づされてしまつた。

併し子供等は自分の受持の場所を取り外す時には大變に注意深い。何故なら、それがすつかり取り外されると、今度は再びその家を自分達で組み立てなければならぬ事になつてゐるから。

「第一片を持つてゐるのは誰?」と先生が訊ねた。

これ等に用ひられる各部には皆番號がつけてあるらしい。組み立てる時にはその順に従つて用ひなければならぬのである。家を組み立てたり、その附屬物をこしらへたりしてゐる間に、子供達は、それらの用法を説明したり、それに關しての經驗話等を語り合つたりしてゐる。かくして樂しい一時間と十五分は過ぎてしまつた。かうして小さい主人達は常用の事物に就てその名稱や作用やその他色、數、組み立て、扱ては何にも優つ

て全員の協同が大切である、といふ様な事を學ぶのである。

ラ・メイゾン・デ、プタイの強み特徴ともいふべきことは、子供の創造的想像力で表現させる手段として、組み立て、といふ様な方法を採用してゐることである。即ち、子供のあり餘る創造力で、いろ／＼なものを組み立てたりさせて、思ふ存分に吐き出させてゐる、といふ點である。と云つてもこれは、この幸福な學校生活には入る子供の、最初の活動は、組立てに限つてゐる。學校生活の幸福は、組立てをさせなければ得られない、といふ意味ではない。何故なら、最も初期に於ける活動はそれ自身目的であり、對象であるからである。子供は、最初、自分自身の想像や、必要の方へ外界の物事を適應させる。以前の經驗が教へてくれる通りにしよう等と思ふのは、子供等が彼自身の目的を持つた個人的經驗を積んでから後のことで

ある。併し、組立ての長所は一例を挙げれば、シヤンプル・ド・カルキユールに於て見られる。ここでは子供は最初の經驗を數に關して得る。とは云ふものゝ、それは「總計」と云つた様の抽象的な事をして得るのではない。物にはそれ／＼違つた性質があり又、用途によつてそれ／＼の使用法といふものがあるが、シヤンプル・ド・カルキユールに於ては、一々これ等の實物をもつて建物をしたり、器具を製作したりして、數に關しての經驗を得るのである。かくして子供は、目的によつていろ／＼と導かれながら、だん／＼考深い活動をするやうになる。活動は又いろ／＼な事を考へさせる様になるのである。子供の發達の第三の階段ともいふべきものは、子供が或る困つた境遇に、うまく自分を適應させることを知つた時である。この時は、彼の作きは秩序立てられてゐるし、彼の活動はもう彼の考の僕であり、そして彼の考は

空なものではなく、きつと實行を伴つてゐるのである。

ラ・メイゾン・デ、プティ、の女の先生の、十二年間に互る觀察に依れば、子供の教育に用ふる材料は、子供の發達の下に述べる三つの階段によく順應するものでなければならぬ、といふのである。

最初の階段 三歳から五歳まで、

この時代の子供は、目的をも材料をも、自身自身の必要と想像にまで適應する。この時代は即ち、他に何の目的も無いそれ自身のための、運動神經的な、又は、筋肉的な活動の時代である。

第二階段 五歳から七歳まで、

この時代は、運動神經的な活動に、心的活動が加はる。そして機械的模倣から、段々と目的を持つた創造に變化して來る。

第三階段 七歳から一〇歳まで

この時代の子供は、或る困難な境遇にうまく適應する。感覺的穿鑿好きは、漸次科學的穿鑿好きに變じて來る。知的な活動が有勢になつて來る。

この學校で今用ひられてゐる材料は、この學校の女の先生と、ルツソー學院とが共に深く考へ、永年經驗した結果の產物である。モンテッソリーの教具は、自己指導といふことを目的として造られたものであるのに、物を組立て様とする止むに已まれない子供の欲求を充分に充ててくれる様には思へない。これは多分、モンテッソリー女史は初め異常兒に興味を持つて居たからなのであらう。それから、フレーベルの恩物は、組立てといふことを目的として考案されたのに、子供が取り扱ふものとしてはあまりに小さ過ぎる。それ故にこの學校の先生は、自分達が子供の活動をよく觀察

した結果、自分達で適當だと考へる材料（教具）を作つたのである。器具の或る物は單に、幼い男女兒の、自發的な組立てに對しての適應である。かくして五五球の算盤といふてゐるものが作られた。これを造るには、數週の間一人の女兒に糸と色をつけた球とを與へて、一、黄色、二、綠色、三、赤色四、藍色五、堇色、六、橙色、と順次に並べ得るまで遊ばせ、之をよく觀察して造つたのである。之等の教育遊具の製作に當つて、或る物は非常に、デリケートな手際と、精確さを必要とするが、この學校は、木工に於て非常に優れた技巧を持ち且つ又非常に熱心な精神を持つた協同研究者を有してゐたのである。

この器具の或る物は、既にアメリカによく知られてゐるが、尙ほこの器具の一組とされてゐる圓板遊び、數のとり合せ、ピタゴラスの正方形遊びの三つは今工場で製作されつゝあるのである。こ

れ等についても、紙數さへ許さば、述べる價值は充分にあると思ふが今日は述べないことにする。併し私は、組立の原理は、あらゆる正しき發達の基礎をなすものであるといふことを述べたいと思ふ。

子供達が各々模型の家を作り終へ、跡片附をしてしまつた後、食事をしたり散歩したりしようとして森の方に駆け出して行つた。やがてのこと、どやくくと歸つて來て別々の室に入り、各自は自分の名のはつてある机に向つた。その時私は低い笛の音をきゝつけた。この音は、このグループの子供達が、自分達のグループの秩序を整へるために特に撰んだ信號なのである。組立ての原理は、やがて、法則の作成の際にも適用しうるものである。かれこれ遊んでゐる中に、どうしてもゲームの規則は必要であるといふことがわかつて來た。いろ／＼話し合つてゐる中に、子供達は段々とな

かる様になつて来る。そして子供でも大人でも先生でも、規則には従はねばならないものだと思つて悟る様になる。

黒板の上に貼りつけてあるのは、紙の傳票であつて、机の上に貼つてあるものゝ複寫である。

「この名まへは何といふ名か、云へる方は？」とラフェンデル夫人はきく。

「それは、ウイリアムです」とシモンは答へた。

併し、シモソの答は違つてゐるらしい。彼の判断は精確にされなければならぬ。先生は黒板からその傳票を取り外し、チョークでもつて書いてある同じ名まへの下に持つて行つて、シモソの答は正しいかどうかをきくのである。かくして一人づつ黒板の傳票は外づされ順々にその保管をさせられる。今はマリーが保管せられてゐる。

やがて、ラフェンデル夫人はマリーから傳票を取り、手の中に入れてそれをごちや／＼にしてし

まふ。それから遊びは又始まるのである。先生は一人づつ子供を呼び出し、そして傳票を一枚だけ撰らせる。それからこの傳票と同じ名まへの貼つてある机を見つけて出すまで、その室中を探させるのである。私は、ラフェンデル夫人は札切り……に於ての老練家であるに違ひないと推斷した。何故なら、子供が自分のカードを抜きとるひまがない程に敏速に行はれるから。五分ばかりの間に、各自は、自分のネームカードを持つて席に着いた、手に持つてゐるカードは元は黒板に貼つてあつたもので、各自の机の上に貼つてあるのと同じものである。

さつきとは違つた低い笛の音がきこえて來た。今度はそのネームカードを黒板へ貼るのである。なか／＼細かい注意の必要な遊びだ。吾々はチョークでもつて吾々の名の書いてある黒板を見てゐる。その中に、ラフェンデル夫人は立つて行つて

電光の様に早くその名まへの一つを消す。すると消された名まへの子供は大急ぎで出て行つて、その空いた場所へ自分の傳票を貼りつけるのである。この時の傳票はこの遊びが始まつた時黑板に貼つてあつたものである。時々、躊躇する人もあれば又二人でちよこ／＼出て行つて各々其の権利を主張し合つては並み居る人々を笑ひこけさせるものもある。併し遂には全クラスの傳票が再び黑板に貼られるのである。

再び笛が鳴る、今度は、ラフエンデル夫人は電光よりも敏速である。

「電光よりも早くですか？」と(まじめな)マーセルが尋ねた。

「これは、六ヶ敷いかも知れない、でも試て見ませう」と先生は答へた。

こう答へながら先生はもう鞭を手にした。そしてこの鞭で、非常に速く黑板に貼つてある一枚の

傳票をさすのである。すると指された人は立つて椅子をきちんと机の内側に押しやり、それから大急ぎで室の外へ出る事になつてゐるのである。電光の様に名まへが指された。そこでレンは速やかに立ち上り、笑をこらへて椅子を押しやり、爪先き歩きでその室を出た。次にジェンが指された、ジェンは大急ぎでその室から走り出やうとした。が彼の出口は先生のやさしい腕で防がれた。先生の聲で彼は義務を忘れたことを思ひ出した。あゝ椅子！彼はそう叫びながら歸つて來て直して行つた。ルシイは嫉妬深い友達のためにあまり興奮し過ぎ二度やり直さねばならなかつたし、ナネツテはゆつくりし過ぎて、しかも自分の時でない時に出たりした。一人去り二人去りその室は段々と空になつて來る。

之等の讀み方遊びは、一度の注意も又非難も無しに、少しの興味を失ふこともなく、子供達が自

分達で作つた之等の規則以外には別段何の規則もなく四十五分間も長く續いた。

この面白い遊びをしかもこんなに熱心にするに至つたのは、新しい遊具があつたからである。この遊具は、木製の文字であつて、丈夫な點に於て奇麗な點に於て、又その長持ちする點に於て、從來の紙製、板紙製のものに比べ進歩の跡が見える。子供等は之等を自由に取り扱ひ思ひのまゝに並べて見たり又簡単な言葉等を綴つて見たりして遊ぶ。粘土や漆喰等でも幾組もの文字を拵へる。切り抜いて文字を拵へることもあれば、刺繡することもある。そして遂ひには、自分の名を好きな色でもつて書くことが出来る様になる。

私は獨り腰を下ろして自分の幼年時代のことを考へた。自分が始めて読み方を習ひ初めた時のこと——ABCがひどく覺えにくかつたこと——例の「涙の要らぬ讀本」といふ、あの汚れた、背の

赤い教科書が、その書名を裏切つて、無慈悲にも自分を甚く惱ましたことなどをゆくりなくも思ひ出した。そして最後に自分の過去四十年間の歲月がわが幼兒教育の進むべき道を指示する上に、有益な、そして遠大な何等かの改革をば、果して成遂げ得たらうか、どうか、これは疑問であると思つた。(ふじの)

